（第２号様式）

令和６年３月 31 日

神奈川県教育委員会教育長　殿

県立神奈川総合高等学校長

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月８日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒個々の学びを深め進路実現を図る教育課程を編成し、学習意欲と学力を向上させる。 ②カリキュラム・マネジメントを推進し、協働的に課題発見・解決できるグローバルリーダーを育成する。 ③特別活動等を通して主体性、社会性、協働性、創造力等の育成を図る。	①履修指導を通して生徒の学習意欲を向上させ、課題発見・解決能力を育成する。 ②グローバルリーダーに必要となる、多様な価値観を受容し多角的に思考する力の育成を図る。 ③学校行事や校外学習を通して、社会性や協働性を育成し、生徒の主体的な活動を充実させる。	①本校の授業の魅力を整理し、生徒の関心や進路との関連を重視した履修指導を充実させる。 ②生徒自身が学びの進捗を捉え批判的に考える意識の醸成を図れるよう、外部講師による講演の実施および授業改善研究を推進する。 ③学校行事の活性化を図るため、事前学習の充実や生徒との意見交換の場の創出に取り組む。	①効果的な履修指導により学習意欲、課題発見・解決能力は向上したか。（生徒による授業評価） ②批判的･論理的に思考しようとする生徒の意識を醸成することができたか。（講演の振り返り、生徒による授業評価） ③学校行事等において、主体的に取り組み、充足感や達成感を得ることができたか。（アンケート）	①履修説明会において、生徒への伝達内容を各教科で工夫してもらい、履修登録者の増加を図ったが、全体の履修登録者数は例年と大きく変化はなかった。 ②計３回実施した講演の生徒振り返りでは、自身の学習の現状と結びつけた記述が散見した。生徒による授業評価「批判的･論理的に思考し、表現することができた」項目の肯定的回答の割合が88%となり、昨年度から2.1ポイント上昇した。 ③４年振りに外部へ一般公開した文化祭を実施した。95.6%の生徒が主体的に楽しんで行事に参加できたと回答しており、行事の目的を果たすことができた。	①一部に履修登録者が減少傾向の科目がある。履修説明会等において、生徒の関心や進路との関連性についての説明会内容を充実させて履修科目の増加につなげる。 ②生徒が講演の機会を一層活用できるようにするため、講演のねらいや意図をより丁寧に生徒に伝える工夫をする。次年度の新カリキュラム科目完全実施に向け、指導と評価の一体化の視点からの授業改善を継続して推進する。 ③久しぶりに来場者が増えたことにより運営面で課題が残った。企画の質とともに運営の質を高めるよう、生徒の活動を支援していく必要がある。	・目標、取組、各指標に照らしての評価は、意欲的に取り組まれている。一方で、それぞれの活動を通して履修指導をはじめ単位制の特徴がキャリアや進路にどのようにつながるかなどプロセスとしての学校の戦略が明確になっていない。 ・批判的思考の指導については指標をどうするかなど、研修などを通して広めてほしい。 ・生徒の意思決定による学校行事の実施、舞台芸術を踏まえた表現活動など、総合的な構造化により一層の質の向上を図ってほしい。	・多科目の設置及び生徒による主体的な科目選択と決定を保障し、多様で個別最適な学びを支援した。複雑な履修計画の作成において、履修説明会や個別ガイダンスを通して、科目の魅力や進路との関連など説明の内容を工夫し学習意欲の向上を図った。 ・生徒の授業評価「批判的、論理的に思考し、表現することができた」の割合が昨年より上昇し生徒意識の醸成は見られたが、批判的思考の指導について指標が必要である。 ・各行事を再開し主体的な活動を支援しながら社会性、協働性を高めたが、運営や企画内容の一層の精査が必要である。	・育てたい生徒像の共有化とカリキュラム・マネジメントとして教科・科目と総合的な探究の時間の学びを積極的に連携させながら、単位制の強みをキャリアや進路に生かすプロセスを学校の戦略として明確にする。 ・評価と指導に関する研修を年間通して実施し、指導者と学習者を横断した研究を行う。 ・テーマ学習、研究などにおいてポスターセッションや発表の構造的な指導を行うとともに、批判的思考の指導については指標をどうするかなど、研修などを通して共通認識を高める。 ・生徒の主体的な活動については、さらに本質的なありかたを考えさせ、企画運営の質を高められるよう指導したい。
2	生徒指導・ 支援	生徒指導・支援の組織的取組を推進し、たくましく生きる力の育成を図る。	①部活動の活性化を通して、責任感や連帯感の涵養を促し、生徒の主体的な活動を充実させる。 ②学校安全を確保した安心・安全な学習環境の中で、生徒が自らの身心の健康を管理し、意欲的に学校生活が送れるよう、生徒支援の体制の充実を図る。	①部活動の活性化を図るため、部活動説明会や部活動表彰等を行う。 ②危機管理マニュアルを整備し組織的な危機管理体制を構築する。 生徒の日常生活における変化の速やかな情報共有を行い、未然防止の観点に重点を置いた組織的な生徒指導・教育相談体制を実施する。また、学校として対応すべきことと外部支援に依頼すべきことを適切に判断する。	①部活動の加入率を上げることができたか。（部員調査） ②危機管理マニュアルに定める事項を十分に職員に周知できたか。 生徒支援について、学校内における対応や外部支援への対応について、組織的な対応とその成果・改善点を次年度へ適切に引き継ぐことができたか。（担当者による評価）	①４年ぶりに部活動説明会を実施できた影響もあり、部活動加入率が82.4%となり、昨年度から 1.9 ポイント上昇した。 ②危機管理マニュアルを整備し、職員必携マニュアルとして各種事案に対する体制や対応方法を確立し、役割の確認、意識向上を図った。 年次ごとの生活指導・教育相談担当を中心に、各種生徒情報の連絡、共有体制を意識し、複数の関係職員で事案整理、対応の判断を行い、外部支援を活用しながら各種事案に対応した。	①部活動加入率が高まった一方で、参加率や活動実績の面では課題のある部もある。生徒が互いの力を発揮し、高め合える環境や場を創出していく。 ②防災訓練等の実施結果を踏まえて実態に沿った内容にし、各署の役割を毎年度確認する機会を設け危機管理に対する意識向上を継続していく。 生徒指導・教育相談に対する学校としての対応基準や具体的対応の在り方に関する意識合わせを行い、組織的な対応に繋げるための初期対応を適切かつ迅速に行えるよう支援体制の共通理解を図る。	・目標、取組、各指標に照らしての評価は、意欲的に取り組まれていて、特に問題はありません。	・部活動説明会や部活動表彰を行い、生徒の主体的な活動を積極的に支援することにより、安心安全で充実した活動を通して責任感や連帯感の涵養を図った。部活動加入率が昨年より上昇したが、参加率や実績の面では課題のある部もある。 ・危機管理マニュアルを整備し、職員必携マニュアルとして各種事案に対する体制や対応方法を確立し、役割の確認、意識向上を図った。 ・生徒、保護者等、SC、職員による保健委員会を開催し、健康管理意識や安全管理意識の向上を図った。 ・生徒アンケート、個別面談、サポートドッグを実施し、概ね組織的な教育相談体制を意識した生徒支援ができた。	・部活動や課外活動など主体的な活動の状況の把握と情報共有を深め一層の活性化に向けた効果的な支援を目指し、課題の把握、支援方法を検討するとともに、体系的な力の育成の場となるよう支援していく。 ・危機管理マニュアルを実行力あるものに位置付けるよう教職員の研修を充実させていくとともに、防災訓練等の実施結果を踏まえて実態に沿った内容にし、各署の役割を毎年度確認する機会を設け危機管理に対する意識向上を継続していく。 ・生徒指導と教育相談に対する学校としての対応基準や組織的な対応の在り方に関する意識の共有化を図り、迅速で効果的な組織対応となる支援体制の強化を図る。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月８日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	様々な教育活動をとおして、生徒が主体的に進路目標を定め実現していく力を育成する。	進路実現に対する生徒の意識向上を目指し、効果的な情報の提示や働きかけを行う。	①生徒の進路希望の実態を把握した上で、ガイダンスルーム掲示板やクラスルーム等を活用し、必要な情報を随時提供する。 ②各進路行事の目的を職員・生徒に共有し、参加の意識を高める。また実施後はアンケートなどで振り返りを行い、行事の効果を検証する。	①情報発信の頻度や生徒の実態に応じた情報提供ができたか。（県立高校アンケート） ②各進路行事に対し生徒の取り組みは積極的だったか。任意参加の進路行事の参加率や満足度は向上したか。	①進路希望調査や模擬試験の志望校の状況を踏まえ、掲示板、クラスルーム、担任を経由して個別に様々な情報を提供することができた。 ②各進路行事について、年次レベルで情報共有を密にすることで、職員及び生徒の意識を高めることができた。	①生徒が必要とする情報を、より的確に提供できたかについて年度内にアンケート調査を行い、改善の方策を検討する予定である。 ②進路行事の目的の共有は全校レベルでは不十分であり、次年度の課題である。実施後の感想票や参加率を分析し、次年度の進路行事の頻度や内容を年度内に検討する予定である。	・目標、取組、各指標に照らしての評価は、意欲的に取り組まれていて、特に問題はありません。	・「県立高校アンケート」の「希望の進路に役立つ補習、講習が受けられたか」「学習の進め方や進路決定においてきめ細かなガイダンスや相談の機会があったか」に8割以上の肯定的な回答があり昨年より生徒の満足度を高められた。 ・大学ガイダンスについては出席者より概ね満足した感想と振り返りがあったが、参加生徒の状況把握や参加効果の検証と改善が必要と考える。	・３年間の学びと進路実現が効果的かつ有意義な関係になっているか分析し実効性を高める必要がある。学習時間と学力伸長、部活動その他課外活動等の状況把握を進め支援力を高める。 ・進路実現ロードマップ作成、模試結果の活用と面談を有機的に関連付け、面談指導を組織的に計画する。 ・生徒のニーズに合わせた学問に興味のもてる公開講座及び体験授業を周知し参加を促すとともに情報収集と生きた進路情報を提供するための方法を工夫する。
4	**地域等との協働**	①教育資源を活用し、未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する。 ②家庭、地域社会等との連携・協働により、持続可能な社会の創造を図る。	①授業やグローバル教育に係る行事等で外部資源を活用し協働して課題解決を図る意識の涵養を図る。 ②ホームページの充実と様々なコンテンツを利用した学校内外への情報発信により広報の充実を図り、家庭、地域社会との連携・協働につなげる。	①総合的な探究の時間のフィールドワークやミニスタディツアー、ワールドカフェ等外部と連携した行事等を実施する。海外パートナー校交流を再開する。 ②ホームページ等の作成担当者を増やし常に新しい情報を配信ができる職場環境づくりを通して発信力を高める。	①協働して課題解決を図る意識を醸成できたか。（行事の振り返り、生徒による授業評価等） ②有益かつ分かりやすいホームページであるか。改善が継続的に実施できたか。（情報更新数、発信数等）	①ワールドカフェについて、県内の高校３校を招待し、対面形式で英語によるディスカッションを実施した。海外パートナー校交流は、２カ国(イギリス、フランス)の受入、２カ国(韓国、スペイン)の訪問を実施した。生徒の振り返りでは対面で交流すること自体の充実感と難しさに関する記述が多く見られた。 ②ホームページ作成説明会を行い、各グループにアカウントを配付をし必要となる情報を迅速に更新できる体制を整えた。	①今年度については、コロナ禍で止まっていた諸活動を４年ぶりに再開できたことをひとまず成果としたい。一方で、ワールドカフェ等の行事における生徒の参加人数が、当初想定していた人数より少なかった。諸活動への生徒の参加意欲の涵養とともに、生徒の興味・関心及び学習意欲を喚起するような周知の工夫及び内容の検討を図る。 ②各グループへのアカウント配付や説明会を行ったことを成果とするが、各グループの更新については次年度より担当者を明白にし発信回数を増やすように努める。	・コロナ禍で止まっていた諸活動を再開できたことを評価する。パートナー校交流については、現在の社会情勢の中で費用負担が増加しているようであるが、貴重な機会でもあり、できる限り実施し、参加者を増やす方向で取り組んでほしい。 ・ホームページ作成を全体にばらまいたことにより統一感や温度差が生まれないよう、効果的、効率的な方法を工夫していってほしい。	・コロナ禍で停止や縮小を余儀なくされていた諸活動を再開し、交流事業等を実施できた。また、海外パートナー校交流は２カ国(イギリス、フランス)の受入、２カ国(韓国、スペイン)の訪問を実施した。コロナ以前と比べ参加生徒数はまだ十分ではなく、生徒の学習意欲の喚起につなげる内容の工夫が必要と考える。 ・校内でホームページ作成アカウントのグループへの配付や説明会を行い組織的な体制を整えることで、より迅速な情報発信ができたが、統一感や各項目の温度差に配慮した効果的で魅力ある内容を工夫する必要がある。	・他校の取組内容や方法の研究や外部資源の活用を進め、内容の質を高め課題解決力を育成する場となっているかしっかりと検証する。生徒の主体的活動に対する支援力を高めるとともに支援体制の継承と改善を定着させていく。 ・進路行事、学習発表会(フィールド発表会)など多様な学びを提供し、教科横断的で質の高い取組となるよう行事内容の精査と指導を行う。 ・校外活動や連携を進め生徒の英語力やコミュニケーション力を育成する連携を検討する。 ・テーマ研究で大学･企業･研究所等の専門家と連携し、より深い探究活動を指導する。
5	**学校管理 学校運営**	①社会の変化に対応し、柔軟かつ迅速に教育課題に取り組み、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。 ②教育計画とのバランスを図り、教員の働き方改革を進める。	①コロナ禍で中止となっていたパートナーズをはじめ各部会等の活動の活性化を図る。 ②各学習教室へのICT 環境の改善を行い、生徒及び教員により良い教育・職場環境を提案する。教員の校務等が逼迫していないかを含め年間教育計画の見直を行う。	①現状における開催方法等について最善策及び必要性について検討をする。 ②各学習教室にプロジェクター等の設置を行う。社会変化に応じた働き方を提案する。行事の精査と日程等の検討をする。	①各活動を活性化させ社会に開かれた教育活動が実施できたか。 ②ICT を活用しより良い教育環境が実現できたか。必要とする業務か否かを精査しスリム化が行えたか。	①パートナーズ活動がコロナ前の状況に戻り各部会も活発に行われ広報紙においては県の最優秀賞を受賞した。コロナ禍で経験した開催方法を参考に新たな開催方法について有意義な議論ができた。 ②各学習教室に単焦点プロジェクターを常設し教員及び生徒により良い授業環境を提供することができた。また、それに伴うコード類の備品についても過不足ない教育環境を整えることができた。	①直接生徒に還元ができている活動であるか精査をして各活動について見直しを行い、次年度より精査を行う予定。総会等については、コロナ前の形式ではなく新しい開催方法を検討し保護者等及び学校にとって最善の形式を検討する。 ②投影するスクリーンについては十分な環境が整っていないので 30 周年記念行事と合わせ次年度より検討を行い全学習室に常設を行う予定。	・パートナーズ（PTA）の活動は保護者等のサークル活動にならないように、学校に還元できるように留意する必要がある。 ・ICT 機器を活用している教員が増えている。チャット GTP をどのように使っていくのかなど検討事項と考える。 ・ICT 環境や教室環境の整備にパートナーズ（PTA）としてできることを考えていく。	・パートナーズ活動がコロナ前の状況に戻り各部会も活発に行われ広報紙においては県の最優秀賞を受賞した。総会等についてコロナ前の形式ではなく新しい開催方法を検討し保護者等及び学校に最善の形式を検討する。 ・各学習教室に短焦点プロジェクターを常設し教員及び生徒により良い授業環境を提供することができた。30 周年記念事業とも関連させ、一層環境改善を図る一方、チャットGPTなどツールの活用方法検討が必要である。	・パートナーズの各活動を見直し、支援の在り方を検討する機会を設けることにより教育活動の充実と向上につなげる。 ・総会等については、新しい開催方法を検討し保護者等及び学校にとって最善の形式を検討する。 ・教育活動の充実と質の向上に向け、業務精査やDX化を進める中で教職員の働き方改革を進め、授業改善や教育環境の向上につなげる。そのための効果的なICT 活用の研究や職員研修も充実させたい。